

令和6年度 宜野湾小学校 校内研修

1 研究テーマ

読みとる力を確実に身に付けさせるための指導の工夫

～国語科物語文における児童の問いから学びを深める学習活動を通して（2年次）～

2 テーマ設定の理由

本校は、これまで学推と連携を図りながら、学校教育において育成を目ざす3つの資質・能力を児童の実態を基に学校教育目標として明確化し、キャリア教育の視点（学習意欲や自己肯定感の向上、関わる力・ふり返る力・やりぬく力・みとおす力等）を取り入れながら、全職員で共有・共通実践を行った。さらに各学年で単元配列表を作成・掲示し、教科等横断的な視点を踏まえた年間の見通しを児童と共に共有し、「学び・育ちの実感」を積み重ねてきた。その際、国語科における説明的な文章の単元において、読みから表現につなげる指導を通して、「主体的に学習に取り組む態度の育成」をテーマとし研究を行った。その結果、交流活動にて主体的に友達と考えを伝え合うことができる児童が増えた。

一方で、全国学力・学習状況調査の結果では、「内容を読み取り、条件に合った文章を選び出すことができない」、研究のまとめからは、「表現活動において個に応じた手立ての工夫が必要」等の課題が挙げられた。また、算数や他教科でも文章問題を読み取る力に課題があることも分かった。主な要因として、文章の内容を読み取る際に、叙述を基に内容を理解していない、目的に応じて必要な情報を見つける際の手立ての指導も不十分だったと考える。このことから読みとる力を確実に身に付けるためには、文章の内容を読み取る際に、「視点の与え方」や「問いの持たせ方」など、全職員で「わかる授業」の構築を目指した授業づくりが必要である。

そこで本研究では、読みとる力を確実に身に付けさせるために、令和5年度からの2年間を通して、これまでの成果と課題を踏まえ、国語の説明的な文章で身に付けた力「伝え合う力」や「書く力」を活かしつつ、文学的な文章（物語文）の指導について研究を進めていくこととする。具体的には、『解説国語編』「読むこと」の領域における4つの学習過程の中でも、特に「精査・解釈」に着目し、「物語を具体的に想像し、正確に読み取ることのできる児童の育成」を目指し研究を進めていくこととする。

まず、児童が身に付けるべき資質・能力を明らかにした上で、文学的な文章の系統性と指導事項を一枚の表で明確にし、単元の導入において「学習のゴール」と「身に付けたい力」を確認することで、見通しをもって学習できるようにする。次に「初発の感想」での問いを始めとし、毎時間の振り返り活動では、この時間で身に付いた力の確認とさらなる問いを持たせることで、意欲的に次の学習へとつなげていく。そして、毎時間で生まれた問いに対する自分の考えや言葉に着目し、自分の考えをまとめる等の「自学自習」を通して、読みとる力を確実に身に付けることができるのではないかと考え、本テーマを設定した。さらに、今年度も単元配列表の活用を充実させ、学習の見通しを持たせたり、他教科との繋がりがや学びの足あとを確認したりしながら、本校の子どもたちの課題として挙げられている「読みとる力」を高め、国語科における「わかる授業」の構築を目指した学習活動を設定する。

3 研究の方針

- ① 研究主題や研究内容について全職員の共通理解のもと、実践的研究を推進する。
- ② 毎月1回研究推進委員会を持ち、学年の研究の進捗状況や提案事項の検討を行う。
- ③ より研鑽を深めるために、理論研修や授業研究会では、指導主事や外部講師を招聘したりして研究を進め、実践や指導に役立てる。
- ④ 本校における授業・研究内容の流れの確認・検証授業について
 - (1) 1学期に、授業の流れ（授業スタンダード）や研究内容を全職員で確認する。
 - (2) 1年目（令和5年度）は学年研とするが、全職員が自由に授業を参観できるようにする。
2年目（令和6年度）は全体研とし、検証授業を行う。（主事を招聘し、今後の研究・実践に役立てる。
令和6年度は第3学年が検証授業を実施。）
- ⑤ 12月に学年ごとに研究をまとめ、2月に全体で1年間の研究のまとめを共有する。さらに、次年度の方向性を提案・確認する。
- ⑥ 市の研究指定（幼小中連携）研究テーマと重ねて研究を進める。
- ⑦ 令和5年度～6年度までの2年間の研究とする。今年度は、2年次研究・研究のまとめとなる。

4 研究仮説

国語科における物語文の学習において、文学的な文章の系統性と指導事項を確認し、児童が身に付けるべき資質・能力を明らかにする。さらに、身に付けたい力や単元のゴールを明確にして学習を進めていくことにより、児童が自らの問いをもとに学びを深め、読みとる力を確実に身に付けることができるだろう。

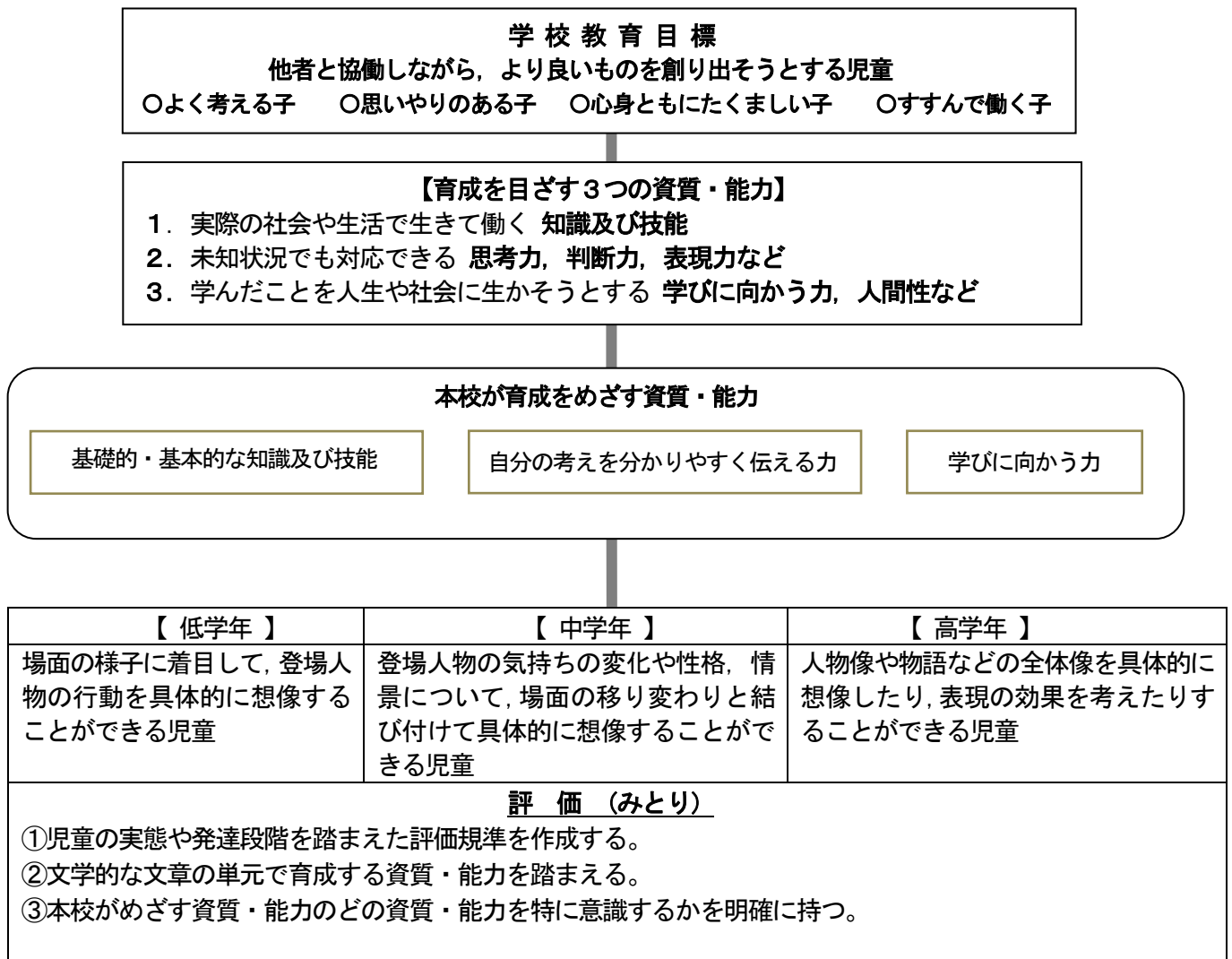
5 研究計画

1年次 (令和5年度)	読みとる力を確実に身に付けるための基礎的・基本的な事項を踏まえた指導の充実
2年次 (令和6年度)	児童の問いから学びを深める学習活動の充実。(研究のまとめ)

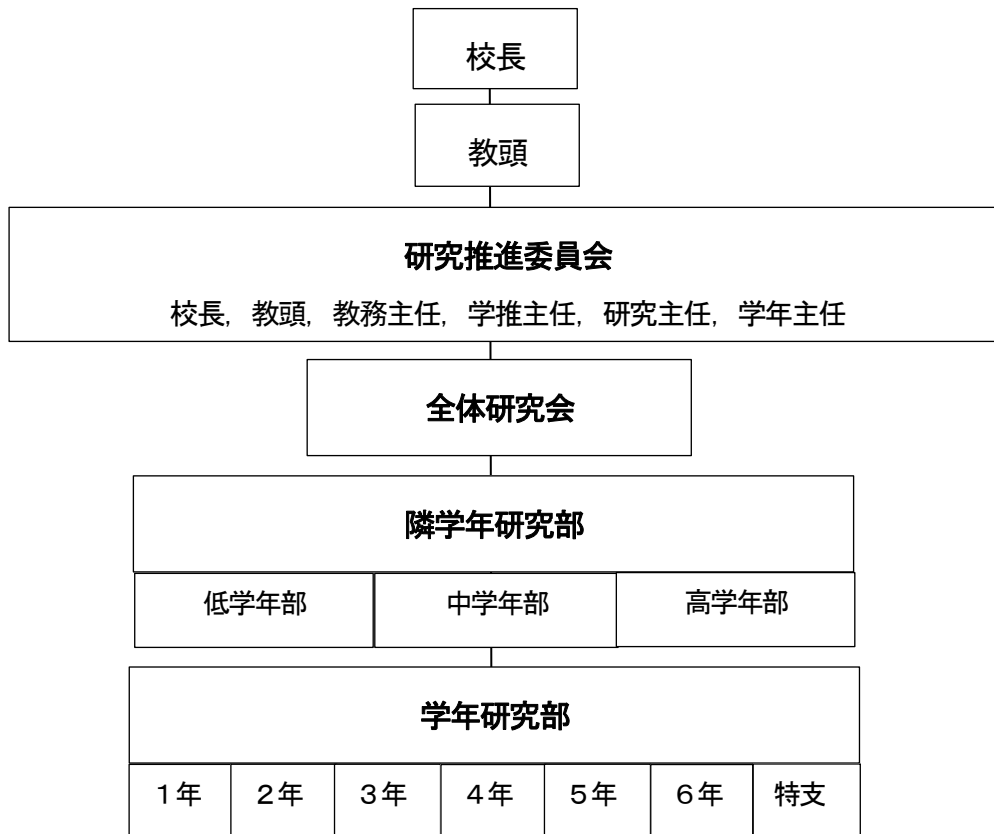
6 研究方法

- (1) 研究内容の共通理解
- (2) 講師招聘による理論研修の実施
- (3) 授業実践と授業研究会の開催
- (4) 児童の実態把握(事前・事後アンケート実施 年2回実施)

7 学校教育目標と本研究テーマとのつながり



8 研究組織図



9 役割分担

組織	活動内容	構成員
校長	研究全般への統括, 指導助言 講師への対応	
教頭	研究全般についての指導助言 主事・講師との連絡調整, 公文・依頼文の作成・発送	
教務主任	研究会の円滑な推進, 調整	
研究主任	研究の立案・計画・推進 指導主事・講師との連絡調整 隣学年研究部・学年研究部との連絡調整 研究収録の取りまとめ	
研究推進委員会	全体研究会への提案事項の検討・確認 各学年部の研究推進	校長, 教頭, 教務, 学推主任, 研究主任, 学年主任
全体研究会	研究内容の共通理解, 理論研究の実施 検証授業の参観及び研究協議 実践の振り返り	全職員
学年研究部	検証授業の参観及び研究協議 学年児童の実態把握 検証授業や日々の授業づくり 実践の振り返り・まとめ	各学年部

10 校内研究および研修計画

月	日	曜日	内容	研修単位	指導主事 講師
4	4	木	校内研究の内容・研修計画の確認 昨年度の実践・成果と課題の共有	全体会	
5	1	水	救命救急，エピペン・アナフィラキシー講習会	全体会	中部徳洲会病院スタッフ 体チーム担当
5	8	水	理論研修（物語文の進め方・主体的対話的な学び） 15：00～16：30 ※6校時カット	全体会	京都女子大 教授 水戸部先生
5	22	水	教材研究（1学期物語文）	学年	
7	24	水	夏休み研修①（CAP「子どもへの暴力防止プログラム」）	全体会	CAP 教育相談担当
7	29	月	（午前）夏休み研修②情報夏期講習（ICT） （午後） ③国語教材研究（3学年の授業づくり）	全体会 全体会	はごろも学習 センター 視聴覚担当
8	26	月	教材研究（2学期物語文）	学年	
9	27	金	教材研究（2学期物語文）	学年	
10	4	金	第3学年物語文検証授業※（3－以外5校時カット）	全体会	京都女子大 教授 水戸部先生
10	9	水	教材研究（2学期物語文）	学年	
12	25	金	授業実践の振り返り ※12/27 今年度の授業記録提出〆切り日（成果と課題）	学年	
1	8	水	教材研究（3学期物語文）	学年	
1	15	水	教育課程編成部会（次年度の校内研究の提案・計画）	研究推進 委員会	
1	31	金	今年度の校内研究の取り組み，成果と課題の報告会	全体会	
2	21	金	次年度校内研究の提案（教科・テーマ・内容確認）	職員会議	

※月1回校内研実施の計画ですが、5・10月は2回組まれているため、6・11月は無しにしています。

※研修計画に変更があった場合、その都度提案させていただきます。